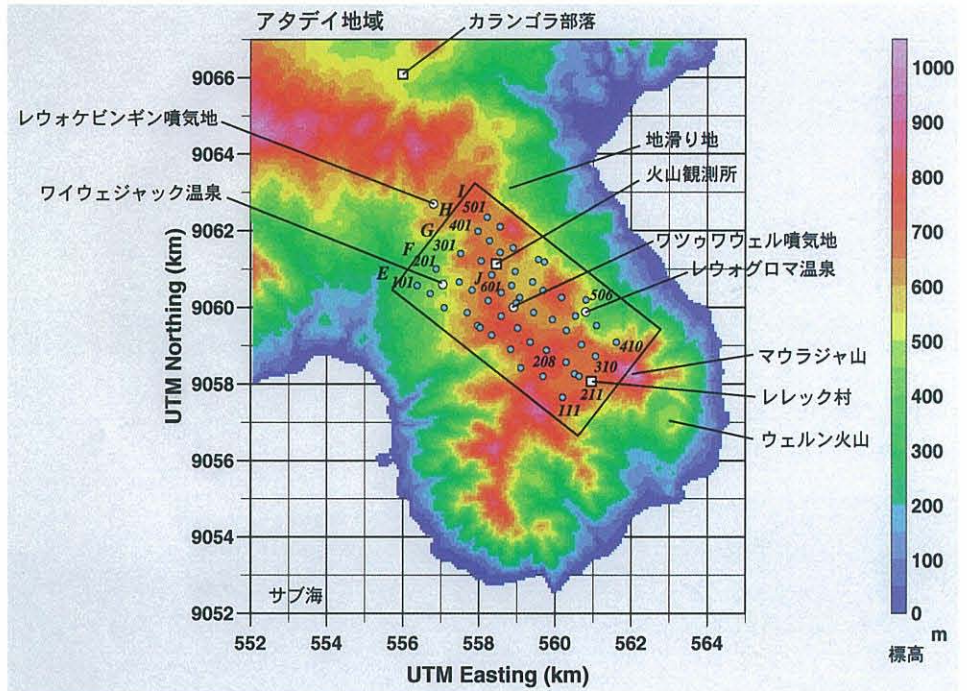


レンバータ島アタデイ地域におけるMT法調査

<内田利弘>



1. インドネシア国レンバータ島の南東部に位置するアタデイ地域。標高をカラーで表示し、MT法測点を青丸で示す。長方形は口絵8に示す3次元解析の対象エリア。



2. ウェルン火山の火口。アタデイ半島の南東端に位置する。最高地点は写真正面の東側ピークで586m、火口底の標高は413mである。1950年頃から噴火活動を繰り返しているが、今回は、噴気は見られなかった。



3. 調査地域の東半分を望む。測点208 (F測線) から北方向を見たもの、二つの若い火山丘 (ドーム) があり、それを囲む小さな盆状構造が見える。



4. ワツワワエル地表微候地を南西側の丘から望む。微候地の標高は約620m、MT法調査域の中央部に位置する。南北約100m、東西約150mの長円形を呈する。



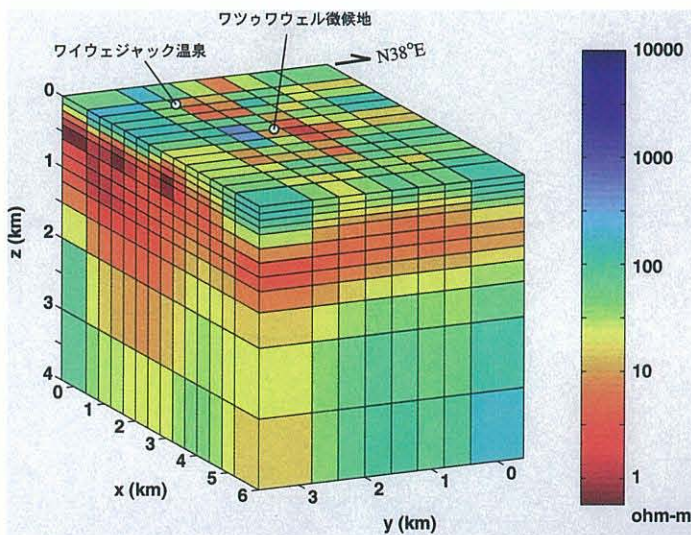
5. 調査の最終日にワツワワエル地表微候地の東端でMT法の測定を行った。



6. ワツワワエル地表微候地の全景。噴気の最高温度は98℃であるが、雨量が少ないため噴気量は少ない。スメクタイト、カオリナイトなどの粘土鉱物の存在が推定されている。



7. ワイウエジャック温泉。標高は約450m、最高温度は約40℃、湧出量は毎分約300リットルと見積もられている。右側(東側)のパイプほど高温のお湯が出る。周辺の村落の貴重な水源になっている。



8. MT法データの3次元解析によって求めたアタデイ地域の比抵抗構造モデル。南から鳥瞰した図であり、口絵1に示した長方形の範囲を示す。地表微候地や温泉付近では浅部に低比抵抗異常が見られる。また、その下には低比抵抗層が広く分布している。